

日本の展望委員会 情報社会分科会（第2回）

議事要旨

1. 開催日時 平成20年10月23日（木）10：00～12：00
2. 開催場所 日本学術会議5階 5-A(1)会議室
3. 出席者（敬称略）
（委員）武市正人、池田眞朗、直井優、斎藤成也、新山陽子、青山友紀、
田中英彦、大江和彦、山口いつ子
（事務局）関、井上、大西、中島
4. 配布資料
資料1 前回議事要旨案
資料2 検討課題に関する意見等
資料3 今後の進め方等について改訂版（展望委員会第2回の資料3）
資料4 「日本の展望」の成果物とその取り扱い（案）（展望委員会第2回の資料4の改訂版）
参考1 2008-06-26〔提言〕安全・安心を実現する情報社会基盤の普及に向けて（情報学委員会 セキュリティ・ディペンダビリティ分科会）
参考2 2008-06-26〔提言〕安定持続的なユビキタス時空間情報社会基盤の構築に向けて（情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会）
参考3 2008-07-24〔報告〕電子社会における匿名性と可視性・追跡可能性－その対立とバランス－（法学委員会「IT社会と法」分科会）
参考4 2005-09-15〔要望〕電子媒体学術情報の恒久的な蓄積・保存・利用体制の整備・確立（要望）
参考5 2005-08-29〔対外報告〕学術調査と個人情報保護－住民基本台帳閲覧問題を中心に－（社会学研究連絡委員会）
参考6 2005-07-21〔対外報告〕デジタルコンテンツ流通のための課題と施策（基盤情報通信研究連絡委員会デジタルコンテンツ専門委員会）
追加資料1 課題検討案（武市委員長）
追加資料2 日本の展望委員会 各テーマ別分科会に関連する意思の表出（第20期－18期）一覧

5. 議事

（1）前回議事要旨の確認

資料1に基づいて前回議事要旨の確認が行われた。

（２）今後の進め方について

１）武市委員長から、資料３及び４に基づき、分科会においては日本学術会議の過去の報告書等を十分に活かしながら審議を行うこと、「日本の展望―学術からの提言」に盛り込むべき事項の提案を2009年3月末頃までにまとめること、及び、分科会の報告書案（A4、20頁以内）を2009年8月末に展望委員会・起草分科会に提出すること等の説明がなされた。

２）本分科会での具体的な検討課題として何を取り上げるかについて、資料２、参考資料及び追加資料に基づき、各委員からの提案と委員間での意見交換が行われた結果、以下の12個のキーワードとその担当者を選び、11月25日までに担当者はA4で一枚または二枚程度の説明文書をワード・ファイルの添付にて幹事宛にメール送信することとした。

- （１）セキュリティ（安全性）―田中
- （２）バーチャルリアリティ（情報社会と心理）―池田
- （３）デジタルディバイド（情報格差、市民への定着）―大江
- （４）情報社会システムのディペンダビリティ（信頼性、制度、最適化等）―池田
- （５）デジタルディレンマ（情報の恒久的保存等）―青山
- （６）教育（情報リテラシー、情操教育）―武市
- （７）知識の外部化と個人化―直井
- （８）情報の自由、規制、保護―山口
- （９）個人の権利と社会資本としての情報―大江
- （１０）グローバル化―斎藤
- （１１）情報の共有と合意形成―新山
- （１２）情報構造の変化に伴う管理―大江

（３）次回の分科会の開催

次回の分科会は、12月8日13時から日本学術会議において開催する。

（議事要旨作成者 山口）